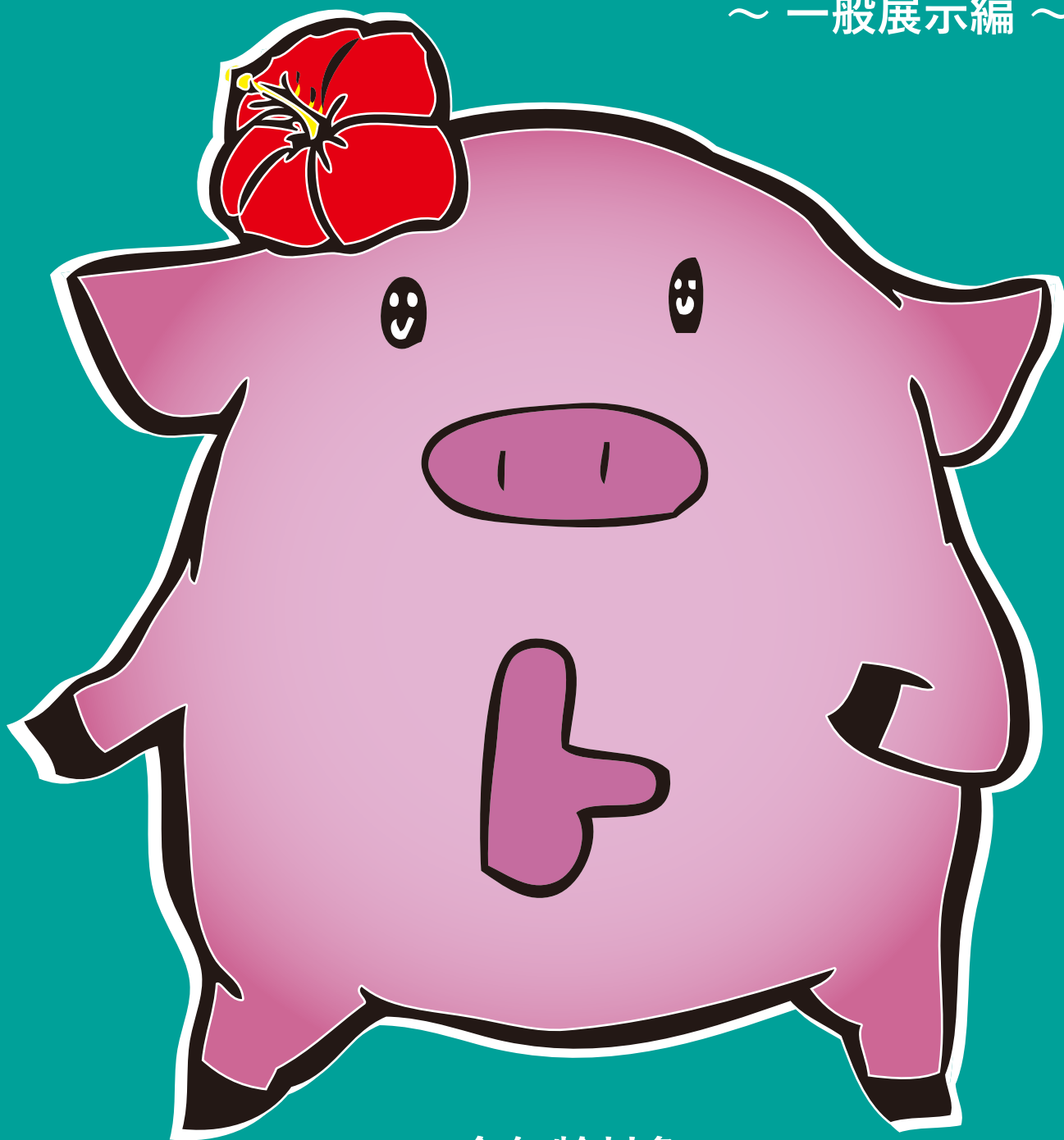


沖縄県立図書館職員が

マジ本気で薄い本

を作ってみた。

～ 一般展示編 ～



全年齢対象



目次



1. はじめのはじめに



2. 沖縄県立図書館の展示のあゆみ



- 平成 20 年から令和元年の記録をもとに -

3. 図書館展示の可能性

- あるいはオタク系展示について -

4. あとがき



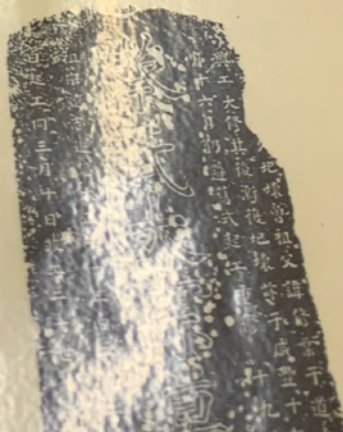
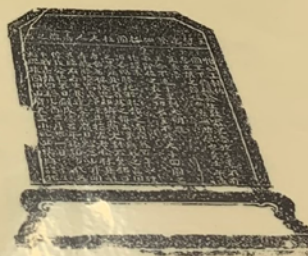
NEC

平成 25 年度

平成 21 年度

沖縄

沖縄県立図書館要覧



中

はじめのはじめに

そこに山があるから登るのか？いや違う。
進む先に山があった。それだけだ。

少しかっこいいようなセリフを思いついた
ので、書きたかっただけです。はい。

修羅場という言葉をご存知でしょうか。
各種辞典によれば争いや闘争の場ということ
ですが、創作において修羅場とは、
べ切直前であるにも関わらず原稿が終わっ
ていない状態であり、作家本人が修羅のご
とくべ切に追われて戦っていることを指し
ます。つまり私のことです。

そんな修羅場の状態で駄文を認めるのは
なんとも楽しいことで在りますが、何やら
走馬灯のごときものが脳裏を横切り、ああ
これは拙いと自分事ながら思うのです。

さて、この冊子はおでかけライブへの参
加記念に作製したものです。このような所
謂オタクなイベントへ公立図書館が参加す
るなど前代未聞であると言われております
が（実際にイベント主催者からは初めてで
あると伺っています。）、発案者の私として
はそこまで不思議なことではないと思っ
ております。

そもそも、当館は県内の読書推進のため、
図書館の設置されていない離島などへ移動
図書館を実施し、図書を手に取る機会の創
出のために団体貸出として保育園や刑務所、
保護施設などにも図書を貸出しています。
現在の当館は図書館の設置されている場所
に囚われず、拘らず活動を広げているので
す。ならば、このような外部のイベントに
参加することは流れとしては自然なことでは
ないでしょうか。その最初のイベントが
おでかけライブであった。それだけです。

私がこの着想を得たのは、2019年1月の

おでかけライブに参加した時でした。その
時は後述する FGO 展示の参考になるもの
はないだろうか、とぶらぶらしていました。
それまでにも私は、個人的に一般参加、サ
ークル参加、コスプレ参加とおでかけライ
ブに参加してきました。しかし、図書館職
員という視点からこのイベントを眺めたこ
とがなかったのです。そしてこの日、私の
思考回路で化学反応が起きました。「沖縄県
立図書館がサークル参加するとしたら、面
白いのでは？」と。当時は新館移転直後と
いうのもあり、この案について深く考える
ことはありませんでした。さらに時が流
れて、2020年11月、格闘系司書(@librarian03)
さんからの誘いにより、「図書館総合展とゲ
ーム部」企画の対談に出演することになり
ました。出演者は面白い取り組みをしてい
る人ばかりで、それぞれのアイデアなどが
交換されました。実は私は負けず嫌いで
して、「これは沖縄県立図書館も負けてられ
ないぞ」と思ったのです。そしてすぐに企画
書を作成し、館長や上司と調整し、おで
かけライブ主催側とも情報交換し、参加す
る運びとなりました。

冊子の内容は私が精力的に行っておりま
す「展示」をテーマにしました。当館での
「展示の変遷」と「オタク系展示」につ
いてまとめております。本冊子の読者、特
に図書館関係者が、展示の広がりや、可能
性を感じ、展示を企画するきっかけになれば、
望外の喜びです。

さて、なんにせよ、まずはこのおで
かけライブを私たち参加者が楽しむことが大事
ですので、当日のブースが賑やかであるよ
うに、工夫を凝らしたく思います。

沖縄県立図書館 垣花司

令和2年12月22日

沖縄県立図書館の展示のあゆみ
-平成 20 年から令和元年の記録をもとに-

はじめに

沖縄県立図書館は大小合わせ、現在年間 200 回近くの展示を開催している。展示回転率の高さが特徴的な図書館である。しかし、もちろん最初からそのような展示回数をこなしていたわけではない。そこで、当館の展示のあゆみを紹介し、どのような変遷を辿ったのか、どのような取り組みがあったのかを解説及び私見とともに記していきたい。とはいえ、今回調査したのは平成 20 年から令和元年までの記録である。なぜこの期間であったのかというと、単純に時間が足りなかったことと、当館 HP に掲載している要覧データが平成 21 年度からのものであり、この冊子を読んだ方がすぐに確認しようと思えば確認できるという点を考慮してのことだ。もちろん当館に紙媒体での保管分もあり、さらに遡ることは可能であるが、それは今後の有志に任せたい。

さて、展示回数については表にまとめている。平成 24 年までを展示黎明期、平成 25～29 年までを展示過渡期、平成 30 年以降を新しい展開としてまとめて述べていく。また、筆者は平成 25 年の 1 年間及び平成 27 年 11 月以降から図書館勤務しているため、勤務期間以外は要覧を主として、勤務期間については要覧と経験を加味し、私見を交えて解説していく。

沖縄県立図書館の展示回数						
	本館				宮古分館	八重山
	一般展示	子ども展示	外部展示	ビジネス		
平成 20 年	4	-	5	-	17	13
平成 21 年	3	-	9	-	16	13
平成 22 年	6	17	10	-	-	13
平成 23 年	11	20	7	-	-	14
平成 24 年	13	14	2	-	-	-
平成 25 年	32	19	-	-	-	-
平成 26 年	47	29	-	-	-	-
平成 27 年	52	24	-	-	-	-
平成 28 年	41	10	-	14	-	-
平成 29 年	55	21	-	32	-	-
平成 30 年	42	6	-	-	-	-
令和元年	168	21	-	-	-	-

「沖縄県立図書館要覧」平成 21 年～令和元年の実績をもとに集計

展示黎明期

さっそく平成 20 年頃の展示を確認しよう。当時は宮古島市に宮古分館、石垣市に八重山分館が設置されており、本館とは別に記録が残されている。これを比較すると、本館の展示回数 4 回という少なさが際立つ。宮古分館と八重山分館はそれぞれ 17 回、13 回である。これは毎月 1 回以上の展示があったことを示している。要覧には展示タイトルも記載されており、それぞれの時期に合わせた所謂季節展示が実施されていたようである。本館は 4 月に子ども読書週間に、11 月に読書週間に 1 回、3 月に新収蔵資料展と記録上は寂しい回数だ。

平成 20 年展示実績（沖縄県立図書館要覧平成 20 年度より）	本館	分館	宮古分館	八重山分館
4 月	第 50 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
5 月	第 51 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
6 月	第 52 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
7 月	第 53 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
8 月	第 54 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
9 月	第 55 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
10 月	第 56 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
11 月	第 57 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
12 月	第 58 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
1 月	第 59 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
2 月	第 60 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
3 月	第 61 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―

時を進めて平成 21 年であっても、数字は変わらない。展示時期及び内容も特に変わらない。ただし、次の平成 22 年は沖縄県立図書館創立 100 周年記念イベントが控えており、大城立裕文庫の開展示という大きな催事があった。



（平成 21 年 10 月 旧館 2 階郷土資料室）

平成 21 年展示実績（沖縄県立図書館要覧平成 21 年度より）	本館	分館	宮古分館	八重山分館
4 月	第 50 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
5 月	第 51 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
6 月	第 52 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
7 月	第 53 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
8 月	第 54 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
9 月	第 55 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
10 月	第 56 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
11 月	第 57 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
12 月	第 58 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
1 月	第 59 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
2 月	第 60 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―
3 月	第 61 回 こどもの読書週間「絵本の読み聞かせ」	本館	こども読書週間行事 ―児童書展示―	こども読書週間行事 ―絵本展示―

前述のとおり、平成 22 年には 100 周年記念イベントに関連した展示が 3 つ開催され、展示回

数が6つとなった。この年から宮古分館が閉館したことで記録なしとなっているが、注目すべきところとして、子供展示回数の記録が新しく追加されていることである。17 回もの回数が記録されている。展示内容を確認すると、季節展示が多いが、「わらべうた」や「部活特集」のようにオリジナル要素のある展示も散見される。ここで疑問に思われるのが、これらの展示はそれまで行われてこなかったのだろうか？ということである。季節展示はその内容から比較的準備しやすいとしても、上記のようなオリジナルな展示は、準備にある程度の手間がかかり、また企画自体に慣れも必要である。聞き取りとすくなく画像データから、要覧へ掲載していないミニ展示が行われていたようであるが、今となつては詳細が残っておらず、詳細は不明である。



(平成 22 年 1 月 旧館エントランス)

平成 22 年度展示実績 (旧館展示回数累計平成 22 年度より)				
月	一般エントランス	子ども室	外部展示	八重山分館
4 月	第 10 回子どもの読書活動推進計画実行発表「子どもと本の未来」	美術館のわらべうた展発表	HPD 展「ゆめ・つらみ」展	子どもの読書活動推進計画発表
5 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集 おさまの絵本、児童書、部活動
6 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
7 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
8 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
9 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
10 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
11 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
12 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
1 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
2 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集
3 月		子どもの自然集	海の自然集	海の自然集

翌平成 23 年の本館での展示回数は 11 回、子供展示が 20 回である。本館の開催回数が前年と比較して倍近くの数字になっていることに驚きである。前年は 100 周年関連展示が半数を占めていたことを踏まえると、4 倍になっているとも考えることができる。展示内容を確認すると、

蔵書点検による長期休館を除いて毎月開催されている。毎月 1 回以上展示が開催されるようになったのはこの時期からであり、一つの転換点ともいえる時期である。また、季節的な展示だけではなく、東日本大震災に関連した防災展示の開催など時事を取り入れた展示もあり、積極的な展示の取り組みが見られる。

平成 23 年度展示実績 (旧館展示回数累計平成 24 年度より)			
月	一般エントランス	子ども室	外部展示
4 月	第 10 回子どもの読書活動推進計画実行発表「子どもと本の未来」	美術館のわらべうた展発表	HPD 展「ゆめ・つらみ」展
5 月		子どもの自然集	海の自然集
6 月		子どもの自然集	海の自然集
7 月		子どもの自然集	海の自然集
8 月		子どもの自然集	海の自然集
9 月		子どもの自然集	海の自然集
10 月		子どもの自然集	海の自然集
11 月		子どもの自然集	海の自然集
12 月		子どもの自然集	海の自然集
1 月		子どもの自然集	海の自然集
2 月		子どもの自然集	海の自然集
3 月		子どもの自然集	海の自然集

平成 24 年本館展示は 13 回、子ども展示が 14 回である。前年の毎月開催は一過性のものではなくなっているのがわかる。内容を見ると、太平洋・島サミット関連展示、オリンピック展示と時事を捉えた展示と、今後毎年開催されることになる猫の日特集というラインナップである。担当者の趣味が見える展示はとても好ましく思われる。また、前年の八重山分館閉館に伴い、本年からの記録はなくなっている。

平成 24 年度展示実績 (旧館展示回数累計平成 25 年度より)			
月	一般エントランス	子ども室	外部展示
4 月	第 10 回子どもの読書活動推進計画実行発表「子どもと本の未来」	美術館のわらべうた展発表	HPD 展「ゆめ・つらみ」展
5 月		子どもの自然集	海の自然集
6 月		子どもの自然集	海の自然集
7 月		子どもの自然集	海の自然集
8 月		子どもの自然集	海の自然集
9 月		子どもの自然集	海の自然集
10 月		子どもの自然集	海の自然集
11 月		子どもの自然集	海の自然集
12 月		子どもの自然集	海の自然集
1 月		子どもの自然集	海の自然集
2 月		子どもの自然集	海の自然集
3 月		子どもの自然集	海の自然集

ここまで外部展示についてスルーしてきたが、外部展示とは、図書館の展示スペースを外部団体等が使用して開催する展示のことである。とはいえ、使用していたのは沖縄県庁各課（例：健康増進課のハンセン病に関連した展示、保健所の健康に関連した展示、県民生活課の飲酒運転根絶に関連した展示）が中心であり、外部展示というよりは県庁にある展示会場の延長という印象が強かった。平成 21 年の 10 回開催をピークに毎年減少し、平成 25 年以降は本館展示として記録されるようになった。この時点では外

部団体による図書館での展示はあまり注目されるものではなかったようだが、図書館の募集方法と中心街から外れた場所という課題があったためであると思われる。しかし、平成 25 年以降は外部との連携が少しずつ増え始め、平成 30 年の新館移転以降は爆発的に増加することになる。これについては後述する。

平成 20 年から平成 24 年までの展示を概観するに、この時期に展示開催への意識に変化があったように感じられるが、そもそも少なかった開催回数が、月に 1 度の定期的な開催といういわば標準にやっと追いついた時期であった。これには様々な要因が考えられる。まずは平成 22 年の 100 周年記念に関連する各種企画であろう。この年、来館者数が前年比 1.5 倍になっている。この数字はこの年だけではなく、翌年にも続く。来館者の増加は、図書館職員の職務にも大きな影響を与える。その影響が展示回数の増加に直接的に結びついた、というのは安直であるが、単に書架に図書が並ぶのみの図書館に比べ、展示という職員による積極的な取り組みを利用者は継続的に楽しんでいたのではないだろうか。



(平成 21 年 旧館エントランス)



(平成 22 年 旧館 3 階研修室前)



(平成 22 年 旧館 3 階研修室)

展示過渡期

次に、筆者が展示過渡期とする平成 25～29 年の期間を覗いてみるとしよう。まず、統計上の変化として、すでに述べたものであるが、宮古分館及び八重山分館がそれぞれ閉館したことで統計には上らなくなった。外部展示は本館展示へと吸収され、本館展示は一般・エントランスと改称された。また、後述するが、平成 28 年からはビジネス展示という項目を追加している。

さっそく平成 25 年の一般展示回数を確認すると、なんと 32 回である。前年の本館展示と外部展示の合計が 15 回であったことに比較すれば、倍以上になっている。子ども展示についても 19 回と大幅に増加している。展示内容を確認すると、単なる季節展示ではない企画展示が多数を占めている。月に 5 回開催していることもある。内容を確認すると、実は増加しているのは展示回数のみではなく、外部団体との連携イベントも増加している。また、来館者数も前年比 3 割増となっている。これらは連動した変化であると考えられ、その土台には図書館の人員増加という要因がある。前年と比較し 3 名の奉仕員（主にカウンター対応を行う非常勤職員のこと）の増員があった。マンパワーの増加により、展示やイベント企画を多くこなすための余裕が生まれたのだからうかがえる。外部展示枠がなくなったにも関わらず、外部と連携したであろう展示が 10 回程度見受けられることも特徴的

であるが、それ以上に、これまで見られなかった著者特集の登場に注目したい。著者特集はその著者が好きか、あるいは映像化などで話題になった場合に開催されることが多い。つまり、著者単独特集は展示企画者の趣味がたぶんに含まれるということである。このような趣味が入り込むような展示企画を可能とする土壌が、この時点であったことは、後の展示の広がりへの芽として特に注目すべき部分ではないだろうか。

平成26年要覧 (旧館展示企画要覧平成26年度より)			
月	一般展示	子ども展示	子ども展示
4月	わらしこすてすてすて (わらしこすてすて制作委員会) 読者の読書生活 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
5月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
6月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
7月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
8月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
9月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
10月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
11月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
12月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
1月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
2月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活
3月	読者の読書生活 (読者の読書生活) 読者の読書生活と読者の読書生活 (読者の読書生活) 関連展示	子どもの読書生活	子どもの読書生活

次に平成 26 年である。一般展示が 47 回、子ども展示が 29 回。前年比ではどちらも 1.5 倍増。前年の展示で慣れたのか新展示が数多く開催されている。本年に特徴的なのは追悼展示の増加である。追悼展示とは、有名な著者が亡くなったニュースをきっかけに、その著作物を集めて特集することである。回数にして 8 回。これが特徴的な理由として、追悼展示はスピードが求められる展示という点である。追悼のニュースが出たあと、すぐに準備しなければ、そのニュースがあったことすらすぐに流れてしまう性質があり、出身地でもない限りは一か月後に開催というような悠長な計画はできない。ニュースの次の日に行うことが理想的である。このような展示が 1 年に 8 回開催されるということは、展示企画に即応できる職員がいたという証拠である。もしくはそれが許される環境であったということだ。また、本年の 12 月開催の「このビジネス書読んだ？」から毎月に近い頻度で、仕事に関連した展示、所謂ビジネス展示が開催されていることも覚えておきたい。

平成26年要覧 (旧館展示企画要覧平成26年度より)	子ども展示
4月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
5月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
6月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
7月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
8月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
9月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
10月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
11月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
12月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
1月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
2月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示
3月	子どもの読書生活 (子ども展示) 関連展示



(平成 26 年 旧館エントランス)



(平成 26 年 旧館エントランス)

平成 27 年では、一般展示が 52 回、子ども展示が 24 回。ついに一般展示については、毎週 1 度は新しい展示が開催されている頻度になった。追悼展示が多くなったわけではなく、むしろ 2 回しか開催されていない。開催内容を確認すると、前年と同様の展示はもちろんあるが、それ以上にその年から新しく開催される展示が多い。当時の状況を覚えている身からすると、「展示場

所が空いているので次々に予定を詰め込んでいった結果」であったように感じる。すでに展示が開催された場所が、次の予定がないままで空いてしまうことに対して、強い忌避感を持っていた。通常は季節展示のように、毎年同じテーマになりがちであるが、空いた場所を埋めるような企画展示では、テーマのストックが足りなくなる。よって、新たな展示を考え出そうとする習慣のようなものが生まれたのだろう。3年前と比較し、展示が開催されていることが当然、空きがあれば新しく企画する、と言えるような状況になったことは、大きな変化であるといえよう。

平成27年度実績（国語教科書読解調査平成26年度より）	一般教科書テキスト	子ども本
4年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動
5年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
6年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
7年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
8年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
9年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
10年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
11年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
12年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
13年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
14年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
15年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
16年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動
17年	国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語） 国語（国語）	子どもの読書活動 子どもの読書活動



(平成 27 年 旧館エントランス)



(平成 27 年 旧館エントランス)

平成 28 年では一般 41 回、子ども 10 回、ビジネス 14 回の展示回数となった。要覧の項目では子ども室・ビジネス関連とされており、前年まで一般に含まれていたビジネス展示が、抜き出されて子ども室と一緒にされている。しかし、ビジネス展示は、筆者の記憶とタイトルからの推察、当時の資料を基に、ビジネス展示として回数にまとめている。当時、移転前の旧館にはビジネスコーナーが設置されており、特に目立つ位置に設置されていたことから、力を入れている分野であり、子ども展示とは内容が大きく異なるからだ。他にも子育て支援コーナー、シニアサポートコーナーがそれぞれあるが、本年はそれぞれのコーナーから特集したのであろう展示が見受けられる。また、当館の移動図書館「空とぶ図書館」展示も開催されている。すでに平成 30 年の移転日程が固まりつつあった時期であり、図書館の事業紹介に力を入れていたと思われる。

平成 29 年度 年間計画（内閣府社会政策推進部平成 29 年度要目）		
	月～月	一般ビジネスプラン
4 月	- ICA 認定ボランティア - 法テラス推進活動 - 入籍・入籍準備相談会 - 定例会議	子どもの保護活動
5 月	- 東京出張 - 社会福祉協議会主催 - シニアのふりだしフェスティバル開催	- 子どもの保護 - ボランティア - 食のビジネス推進
6 月	- 飯沼マサトシ（内閣府入籍・入籍準備相談会） - 定例の日報会 - 定例会議 - 定例・公開講座 - 定例・定例報告会	ビジネスプラン推進
7 月	「食のふりだし」をテーマにした「ベータ・フィッティング」飯沼マサトシの講演会 「食のふりだし」について - 定例・公開講座 - 定例・定例報告会	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
8 月	- GODA 認定 - 食のふりだし・食のふりだし 「あやむかし」定例会議 「ふりだし」定例会議	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
9 月	- 定例に開催する - ICA オンライン会議	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
10 月	- 定例に開催する - 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
11 月	- 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
12 月	- 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
1 月	- 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
2 月	- 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進
3 月	- 定例に開催する - 定例に開催する	- 食のふりだし推進 - 食のふりだし推進



(平成 28 年 旧館エントランス)



(平成 28 年 旧館エントランス)



(平成 28 年 旧館エントランス)

平成 29 年は旧館最後の年である。一般展示 55 回、こども展示 21 回、ビジネス展示 32 回。合計回数がついに 100 を超え、1 週間に 2 回展示を入れ替えている計算となり、前年比も約 1.6 倍である。展示企画の乱立と表現したい。では展示内容を確認しよう。1 ページに頑張って収めたのだろう展示タイトルが並んでいる。前年度がまるで助走であったかのような展示回数であるが、旧館閉館前に詰め込めるだけ詰め込んだというラインナップである。この時期は、展示場所が足りないということもよくあったと記憶している。展示棚や展示スペースだけでなく、長机や丸机をカウンター前やエントランスに設

置し、ミニ展示を企画したことも数多い。新しい展示を企画するだけではなく、新しく展示スペースを作り出さなければならなかった。それがこの展示回数に反映されている。

平成 29 年度実績 (旧館長の図書館閉館前年度 55 回算入)		
月	一般エントランス	子ども室・ビジネス図書
4 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
5 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
6 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
7 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
8 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
9 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
10 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
11 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
12 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
1 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
2 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書
3 月	おまなちの観光協会展示 香生まれの芸術家 JICA ボランティア 漁業発展支援 シニアのためのリフレッシュ特展	郷土民謡 おまなち つづめる 1 冊 ビザンチウム 春の目録 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書 おまなちのビジネス書



(平成 29 年 旧館エントランス)



(平成 29 年 旧館エントランス)



(平成 29 年 旧館エントランス)

平成 25～29 年を概観すると、展示回数の増加と内容の充実は、まさに展示過渡期であった。人員増加とそれに伴うイベント回数の増加が比例し、貸出冊数についても、平成 27 年から毎年 2～3 万冊増加している。この期間の来館者が大幅に増加しているわけではないことから、既存の利用者へのアプローチが成功していると言えるだろう。季節展示と時事展示を中心としていた内容から、それに当てはまらないオリジナルな企画展示が増加し、展示場所の新たな開拓という、それまで無かった試みもみられた。

ここで私見ではあるが、展示が増加した要因を 3 つ述べたい。一つ目は平成 25 年度の解説にも記したとおり、人員の増加である。二つ目は展示場所の増加である。平成 23 年 10 月に館内備品等の改修した際、子育て支援コーナーとシニアサポートコーナーが新設されたが、エントランスにも展示に使用可能な書架が追加されている。平成 26 年や 27 年の展示に使用されている金網付きの書架である。平成 25 年までは新着本コーナーとして使用され、時々展示として利用されるにとどまっていた。しかし、平成 26 年

からはほぼ 2 週間に一度の頻度で入れ替えられるようになった。併せて、エントランス展示は二つの展示ができるように、パネルを使って区別されるようになった。例えば、平成 28 年のプレゼンテーション展示と、平成 29 年の沖縄平和賞展示が同時開催されるようなことが、何度もあった。また、平成 29 年展示に使用されている縦長の移動書架は、これそのものが展示書架となり、それでも足りなければ、ブックトラックがそのまま展示トラックとなった(写真平成 27 年や平成 29 年のように)。このように、展示場所が増加し、さらに追加可能となったのもこの時期である。記憶を頼りにするしかないが、最大で大小 7 つの展示が同時開催されている時期もあった。

3 つ目の要因として、展示企画・実施のハードルが下がったのだと思う。展示過渡期より前の展示は、複数枚の説明パネルの作成や図書以外の展示物の用意など、展示開催の準備に多大な労力を要していたように思える。しかし、展示過渡期の展示は、タイトルパネルと図書の 2 つの組み合わせが多い。もちろんそれだけではない展示もあるが、展示構成内容がこの 2 つで完結している展示は写真のとおりである。この構成の展示は、比較的労力が少なく済み、構成が単純ゆえに、気軽に展示内容を企画することが可能であった。

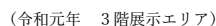
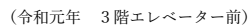
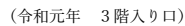
①人員の増加、②展示可能な場所の増加、③展示企画のハードルの低下、この 3 つ要因の相乗効果により、展示の大幅な増加に繋がったのだらうと考察する。そして、これらは次の年にも引き継がれている。

現在の展示の展開

ここからは平成 30 年と令和元年について解説する。その前に、平成 30 年以降の大きな変化として、当館が移転開館したことがあげられる。それまでの那覇市与儀から、那覇市泉崎への移転により、設備面で大きく変化したが、展示についてのみ述べると、展示場所が大幅に増加したことがあげられる。複合施設として建物の 3

さて、平成 30 年から解説をはじめます。まずは回数であるが、3・4・5 階の展示回数は 42 回、子ども展示は 6 回となっている。一見少ないようだが、平成 30 年は 12 月 15 日に開館しているため、通常と比較して 3 割 5 分程度の開館期間である。この短期間で 42 回という展示回数は驚異的である。子ども室展示にしても、このペースであれば 20 回程度になる。展示内容を確認すると、前述のとおり外部団体による展示が目立つ。旧館での展示スペースは広いスペースは無く、パネルが 6 枚おければ十分というスペースであった。しかし、新館では展示スペースによっては、パネルを 10 枚ほど置くことができ、旧館に比べて規模の大きな展示を行うことが可能となった。フォトコンテスト展示や、絵画コンクール作品展などの展示物数が多い展示から、ビデオモニターを設置するような展示まで、今まで見られなかった展示が行われるようになった。また、貸出ホールや、セミナー室も館内に新しく設置されたことにより、館内で開催されるイベント数が激増した。自主企画イベントで 25 回、外部企画イベント 50 回程度の開催がある。新館での展示の特色として、これらのイベント内容に合わせた展示も実施していた。もちろん全てのイベントに対応しているわけではないが、このような展示活用事例は新館で目立つようになった。また、次の章で述べるが、オタク系展示が開催され始めたのもこの時期である。

次に、令和元年について解説する。3・4・5階展示が168回、子ども展示が21回となり、これもまた驚異的といえる回数である。展示の乱立

[illegible]

平成30年と令和元年の2年間の展示回数は爆発的に増加したが、その要因はいくつかある。まず一つ目に、展示スペースの増加である。さらに展示スペースはエントランスなどの利用者の一番目につく場所に設置され、そこが空いていることは回避必須な場所であった。このような事情から、たとえ予定変更等により、1週間でも空くことが判明すれば、職員間で協力して穴埋めの展示を即応的に実施してきた。次に、移転作業中の時期に新館の活用について宣伝や営業を何度も行ったことである。スペースが大きくなることは事前にわかっており、恐らく図書館単体では賄いきれないだろうことは予想できていた。よって、外部団体による利用を増やす必要があり、それを図書館活用という面から呼びかけていたのである。実際に、県庁からほど近い場所であることから、県庁各課から企画を持ち込まれることが多くなった。県民へのアプローチ場所としての図書館の価値が段々と広がり、令和2年現在では場所が足りないような状況である。3つ目に、そもそも展示過渡期に外部との連携展示を何度も行ったことがあげられる。外部との連携展示は、単に展示を行うだけではなく、それに関連した図書を一緒に展示し、図書館通信に掲載するなどの取り組みを行う。事前に展示を行うための素地やノウハウを過渡期に作り上げることができたことが功を奏したといえる。そうでなければ、このような回数をこなすこと自体が不可能であっただろう。

令和2年度以降のこと

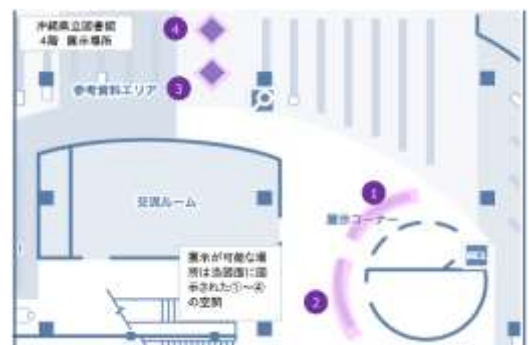
令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当館が臨時休館することもあり、統計上の数字は大きく乱れることが予想される。しかし、上記に示したように、図書館が有効な広報の場であることは、徐々に広がっており、今後もその流れは止まらないであろう。逆にイベント等の自粛により、発表場所に困った各種団体が図書館という新たな周知場所に気づききっかけになりつつある。なんにせよ、当館での展示が今後も数多く開催されるだろうことは間違い

ない。また、今後の展開についても予想してみたい。これから当館の展示は、より手の込んだ、濃い企画が増えるのではないだろうか。外部展示が増加し、作り込まれたパネルや展示物を見る機会が増えることは、職員への刺激となり得る。外部団体との連携展示によって、より広い分野での情報集積が可能になるのか、はたまた蔵書する郷土資料について、より深く専門的な展示企画が持ち上げるのか。展示ノウハウを蓄積し、それを活かす企画が増えることを予想しつつ、期待したい。

図書館学者であったランガナタンの「図書館学の五法則」よれば、「図書館は成長する有機体である」という。筆者は図書館に勤める中、常に図書館は変化していると感じている。まだまだ新たな展開を見せる沖縄県立図書館の展示には、これからも目が離せないだろう。



(現在の展示場所一覧図3階)



(現在の展示場所一覧図4階)

図書館展示の可能性

-あるいはオタク系展示について-

はじめに

誰もが図書館に一度は訪れたことがあるのではないだろうか。学校図書館でもいい。そこに展示コーナーがあったかを思い出してほしい。図書館の展示コーナーとは、特定のテーマに沿って図書を集め、手に取りやすく面出し（図書の表紙を見せて置くこと。）を行ったり、見やすく看板が設置されたりする。時には関連パネルや図書以外の実物が置かれているような少々豪華な展示もある。日本の図書館は日本十進分類法と呼ばれる一定の法則に従い、図書の内容によって図書を分類し、棚へと並べている。よって、日本全国どの図書館に行っても、日本十進分類法に従っている限り、本の並べ方は同じであり、本の探し方も同じなのである。そんな規則正しく並ぶ本たちであるが、実際に図書を探す場合には、難儀することもある。どういうことか？たとえば、「魚」についての図書を探すとして。「魚の文化」は3類社会科学、「魚の生態」は4類の自然科学、「魚の調理方法」は5類の料理、「魚の釣り方」は7類のスポーツ、「魚の絵本」は児童書など、「魚」の何を調べたいかで分類場所が全く異なる。しかし、逆に「魚」一つとっても様々な分野に図書が存在しているともいえる。もし「魚特集」があれば、上記のような図書が各分類から集められ、多角的に「魚について知る展示」となるだろう。まさに展示とはこのようなものである。一つのテーマについて、その図書館が持つ図書を使って、多角的にまたはより深く知る機会を作ることを目的とするものである。

筆者は沖縄県立図書館に勤める者として、

多くの展示を企画した。一般的な展示から、外部との連携展示、そしてオタク系展示を展開している。その中で、展示にはいろいろな可能性があるのではないかなと思えるようになり、おでかけライブ初参加を機にこの執筆を始めた。前章では、沖縄県立図書館の展示の歩みを短い期間ながら解説した。本章は展示そのものを解説しつつ、オタク系展示を中心に、そのノウハウまで紹介できればと思う。本章は図書館関係者、特に展示担当者やこれから展示を実施したいと考えている方に向けている。これらの人の背中を少しでも押す（推す）ことができれば、幸いである。

展示の根拠

まずは、展示を図書館が実施することについて、法的な立ち位置を示そうと思う。

前述のとおり、展示を行うことの有用性は少々示すことができたと思うが、これはあくまでも展示を行う意義であり、根拠ではない。しかし、図書館が展示を実施する根拠は確かに存在する。それが法的な根拠であれば、展示担当者にとっては心強いものとなろう。

図書館法第二条によれば、図書館とは「一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設」とある。また、同法第三条は、「読書会、研究会、鑑賞会、映写会、資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること」や「時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること」を図書館が努めなければならないとしている。

図書館法は図書館を単なる本と本棚の置いてある建物にする気はないことが、これらの条文から読み取れるだろう。図書館はレクリエーションを行う施設でもあり、各

種行事を主催することが求められているのである。図書館での展示は、条文で言うと、「資料展示会」もしくは「時事に関する情報及び参考資料を紹介し、及び提供すること」に該当する。また、「奨励すること」も努めることとされていることから、外部団体企画の展示も積極的に呼び込むことも求められている。これは後述する外部団体との連携展示に関わる部分である。

展示の効果

次に展示の効果を述べていきたい。

展示を開催することでどのような効果があるのか。第一に、貸出冊数の増加である。後述するが、展示は季節や時事に関する企画を開催しやすく、それらは自然に来館者の興味関心に結びつきやすいため、まとめて特集された図書は手に取りやすく、貸出しに繋がりやすい。

次に、普段貸出しの無い図書を表に出すことができる点である。ほとんどの図書館では開架（手続きの必要なく手に取れる書架のこと。）だけでなく、閉架書庫（一般来館者が立ち入ることのできない書架のこと。）を備えている。閉架書庫の図書は検索でしか見ることができず、開架に比べて偶然発見するということがほとんどなく、貸出機会がないと言える。しかし、展示であれば、そのような古い図書を掘り出し物として特集することも可能である。「古い図書は、情報が古いのではないか？」という疑問を持つ方もいるだろう。確かに医学や健康関連であれば、それらの配慮も必要であるが、歴史や文化に関する図書であれば、「当時はこのように考えられていたのだ」という比較対象資料にもなる。文学は問わずもがなであろう。

たとえば、写真のような展示がそれに該

当する。これは後述するオタク系展示であり、メソポタミアに関する図書のみを集めた展示であるが、書庫から大量に図書を掘り出し、展示した。中には明治の図書もあり、恐らくこの展示がなければ書庫から出されることはなかっただろう逸品である。



（絶対読書戦線メソポタミア 展示タイトル）



（絶対読書戦線メソポタミア 展示の展示図書）

写真説明：アニメ「絶対魔獣戦線バビロニア」を見た筆者が溢れる情熱のままに企画した展示。2019年10月9日から1週間程度開催。アニメの舞台設定が英雄ギルガメシュの存在するメソポタミアであったことから、メソポタミアに関連した図書のみ集めて開催。一番右端の図書が明治に出版された図書である。

3つ目に、間接的ではあるが、展示担当者の蔵書把握又は理解が向上する。日頃から書架整理などで蔵書に接している職員には釈迦に説法であろうが、書架整理と展示選書（図書を選ぶこと。）は異なる。図書が分類通りに並んでいるかを確認する書架整理では基本的に図書の中身まで確認することはないが、展示選書では中身まで確認する必要があるからだ。展示選書の際はまず館内検索システムで蔵書を検索する。その際タイトルや著者、出版社、図書紹介など

が該当するわけである（本文まで検索できることはほとんどない。郷土資料でなければ目次まで検索できることも稀である。）が、それが求めている図書であるかは中身を実際に見なければならない。上記のメソポタミア特集の際には、検索でヒットしたある図書の本文を確認すると、メソポタミアは登場せず、なぜか帯にのみ記載があった。このような図書を除くためにも、展示選書は本文の確認が必須なのである。展示選書を繰り返すと、自然と蔵書の理解が深まり、担当者のレファレンス能力（一言でいうと本を探す能力のこと。）の向上に資するだろう。

4つ目に、新しい展示を何度も開催することは、利用者に対して来館のたびに新鮮な印象を与えることになり、活発な図書館であるというアピールにも繋がる。来館するたびに新しい図書との出会いを演出することは、飽きない図書館を作ることだ。

最後に、展示はうまく企画すれば、今まで図書館に興味のなかった人へのアピール場所になるということである。前述の「絶対読書戦線メソポタミア」などのオタク系展示が好事例であるが、オタク系の情報をネタにした展示は、注目を呼びやすい。特に Twitter を併用した宣伝が注目を集めやすく、オタク系展示に興味関心を持つ人への周知に役立ち、これをきっかけに図書館に初来館することも珍しくなかった。

展示を実施することには様々な効果が多い。付随した効果として、後述する外部展示の開催が多くなれば、地域との繋がりが多くなり、より地域に密着した図書館に近づくことにもなる。このように、展示実施は予想外の影響を齎す可能性を秘めている。しかし、唯一注意すべき点としては、継続的かつある程度の頻度での実施が必要であ

るということである。一過性の展示ではこれらの効果はほとんど見られないであろう。

展示の種類分け

次に図書館での展示の種類について述べる。大きく分けて図書館での展示は4つに分けられる。季節展示、外部展示、自主企画展示、オタク系展示である。これらは沖縄県立図書館での展示事例を基に、筆者が分けたものである。展示の開催のきっかけに着目した分け方である。季節展示は周期的なこと、外部展示は持ち込みであること、自主企画は図書館としての企画、そしてインターネット等での流行に乗って開催されるオタク系展示である。次にそれぞれの展示について解説する。

季節展示

季節展示とは、4月には桜、8月には夏休みの自由研究、10月には読書の秋、12月にはクリスマス、というように毎年の季節に沿ったテーマの展示をいう。前章の展示内容を確認いただければ、その傾向が読み取れると思う。季節展示は企画が立てやすい。毎年開催しているのであれば、展示選書も少々楽になる。展示実施の負担が少ないという点では、季節展示はとても有用であり、特に説明が無くとも来館者への共感も得やすいため、違和感なく展示を楽しむことができる。このように説明すると、全国どこの図書館でも同じような季節展示をしているのだろうかという疑問に思うかもしれない。しかし、季節の行事は地域で特色が出るものも多い。たとえば、全国的には戦争や終戦に関連した展示は終戦記念日である8月15日や原爆投下の日を中心に企画されるが、沖縄の場合は、唯一の地上戦があった県であり、8月15日より早い6月23

日（慰霊の日と呼ばれる。）に地上戦が終了したことから、戦争に関する展示は6月に行うのが通例となっている。また、毎年12月初旬頃に開催される那覇マラソンというイベントに関連し、マラソン関連展示を行ったりもする。このように季節展示に地域の文化、特色を活かすことも可能であり、このような取り組みこそ図書館の独自性が表れるように思う。



（平成30年 春の展示タイトル）
説明：サクラ色の図書のみを集めて展示した。

外部展示

外部展示とは、図書館の展示スペースを外部団体などに貸出し、展示を行うことである。どのような外部団体が展示を行っているかは、図書館ごとに異なり、沖縄県立図書館は沖縄県庁の各課の事業紹介としての貸出しが多かった。外部展示はそもそも図書館内に貸出しする展示スペースがあるかどうか、また展示スペースがどの程度の規模の展示を行うことができるのか（備品の貸出し有無も含む。）が問題となる。また、外部展示を開催する場合の図書館の関わり方が重要である。単に貸出しするのみである場合と、貸出しとあわせて図書館の図書を一緒に展示するなどの連携があるかどうかである。当館では、ほとんどの場合図書の展示も併せて行っている。企画内容にもよるが、持ち込まれる外部展示は、何かしらの周知を目的としており、令和元年度の展示実績から抜粋すると、世界自閉症啓発

デー、交通安全月間、SDGs、食品衛生月間、禁煙・禁酒依存症などがある。周知のための展示では、ポスター、パネルなどの設置、チラシなどの配布が主となる。しかし、それだけでは図書館で展示を行う有効性は薄い。せっかく図書館という場所で展示をするならば、企画に合わせた図書を一緒に展示することで、より理解を深める場として展示のクオリティを上げることが可能である。図書館は地域の人が集まる場所であり、周知場所としては良い場所であるといえる。図書館としては普段特集することのない図書の貸出しを期待できる。来館者としては普段目にする目にするものではない分野の図書に触れる機会となる。所謂 win-win の企画となるだろう。このように外部展示は、図書館活用という点からすると利点が多い。しかし、いくら貸出しスペースがあっても、うまく機能するとは限らない。なぜなら、「展示スペース貸出し」そのものの周知が必要であるからだ。筆者は平成30年の移転時期に、様々な場所に営業をかけた。沖縄県庁各課をはじめ、行政書士会などの士業団体、いわゆる第三セクターと呼ばれる機関、国や市町村の機関、民間も含めて新館移転の周知宣伝とともに展示スペースの活用と、上記のような連携展示を提案し続けた。現在でこそ、展示の問い合わせが多くあるが、以前はほとんどなかったのである。外部展示は、文字通り外部との繋がりを作りやすい展示である。各種公共的な団体は何かしらパネルなどの宣伝備品を持っていることが多いので、意外に展示実施自体には前向きに取り組んでくれる団体は多い。気になる団体や繋がりをもちたい団体があれば、図書館側から展示実施をきっかけに話を持ち掛けるのもよいかもしれない。筆者はそうしてきた。



（平成 30 年 文化財課史料編集班展示）

説明：「歴代宝案」という歴史書の紹介展示。床には琉球時代の双六（聖人上）を再現した拡大パネルを貼り付け、実際に遊べるようにした。



（令和元年 工業技術センター展示）

説明：沖縄の塩と砂糖に関する展示。県内企業が製作している塩と砂糖の見本商品を書架上に飾っている。

自主企画展示

自主企画展示とは、季節や年間行事とは関わりなく、図書館もしくは担当者が独自に企画した展示である。これには様々な展示が含まれるが、自主企画展示の中でも内容によって、郷土に関する展示とその他の展示に分けることができる。郷土に関する展示は、当館では「新収蔵資料展」や「組踊 300 周年記念展示」、「沖縄を知る 10 冊パネル展示」などがある。図書館は地域に根差した施設であり、図書館法第 3 条においても「郷土資料、地方行政資料……を収集し、一般公衆の利用に供すること」とされ、収集対象の最初に郷土資料が例示されている

ことから、郷土資料を活用した展示開催の必要性が見えてくるだろう。特に当館では、毎年郷土史講座などの郷土に関係した講座を開催しており、それに関連する形で展示を企画している。



（令和 2 年 琉球ガラスの世界 展示）

説明：歴史講座「琉球ガラスの世界」の開催に併せた展示。関連図書だけでなく、ガラス作品も展示している。

その他の展示としては、ニュースでの話題や時事に関する展示、各種文学関係の受賞に関する展示、図書館の事業紹介展示（館内に設置しているコーナーの紹介や、移動図書館の事業報告など）、館内で開催される各種セミナー等イベントに合わせた展示がある。自主企画展示は規模もさまざまである。ミニ展示として 10 冊程度を短期間展示するものから、予算を使用してパネルを複数枚作成し、図書以外の展示物品とともに展示する大規模なものもある。自主企画展示ではあるが、外部展示に似通った内容もあり、たとえば写真のような「ビジネス海外展開展示」である。これは海外展開を支援する県内の各機関の情報を集め、海外展開を身近にとらえてもらう機会とすることを目的としていた。パネルの作成は当館職員が行ったが、パネルの内容は各支援機関からヒアリングし、まとめたものである。また、展示スペースに置いている配布物は

各支援機関からいただいたものである。企画は図書館職員が行ったが、内容としては外部展示と似通っている。このように外部団体などと協力・連携して展示を行うこともあり、どの程度の広がりを見せるかは、準備期間や人員にもよる。



(令和元年 恐竜に関する展示)

説明：恐竜の「VR体験」であったため、体験会場そばに恐竜の図書を展示した。



(令和2年 ビジネス海外展開 展示)

説明：協力機関からパンフ、チラシなどの配布物預かり、ともに展示。

オタク系展示

さて、いよいよオタク系展示の解説に入る。オタク系展示とは、マンガ、アニメ、ゲームをネタとして展示を企画することである。読み飛ばさなかった読者ならば気づいたかと思うが、自主企画展示と同じではないかと思われるだろう。しかし、展示の種類分け時に書いたとおり、4種類は展示開催時期で区別している。オタク系展示は開催すべき時期がある。それは、端的に言えばネタが熱いとき（旬な話題のこと。）で

ある。具体的には、マンガ原作のアニメ化発表があったとき、アニメが放送されているとき又は話題になったとき、Twitterでバズった（リツイートやいいねの数が急上昇した時や、トレンドに入ったときなど話題になること。）ときである。オタク系展示はこれらを外すと注目を集めることが難しくなる。そもそも数ある展示企画の中でオタク系展示を選んで開催する理由は2つしかない。一つ目は展示企画者がその作品のファンであり、展示の中でそのファン愛を表現したいから（筆者のように）。2つ目は、同じオタクへ向けた発信である。オタクは布教（他人に作品を紹介すること。）を是とし、作品について語り合う場を求める。「図書館には作品に関連した面白い図書がこんなにあるぞ」という発信をきっかけとして、オタクに図書館への興味関心を持ってもらうのである。オタク系のネタは比較的若い人が共有していること、ネタの拡散の場がTwitterであることを考慮しても、オタク系展示は図書館来館のきっかけになる可能性がとても高いのである。そして、この二つの理由はセットである。オタクでなければ、ネタを仕入れることはできず、たとえ非オタクが仕入れたとしても、それを図書館で生かせるネタであるかを判断することが必要であるからだ。ネタが熱い時にそれに関連した展示を実施することは、様々な人に図書館へと目を向けてもらうという意味では理にかなっており、その展示を行うタイミングを知る担当者は必然的にオタクであるのだ。

このように、オタク系展示がどのようなタイミングで開催されるかは決まっているものではなく、ほかの展示とは趣が異なることが伝わったかと思う。



(当館最高のバズツイート記録)
 説明：バズった状態の一例。旧館時代的一幕。猫人気か、タグの影響か、何気ないツイートがここまで伸びた。ちなみに、これをきっかけに、猫館長イベントが開催されるようになった。

オタク系展示の話題作り

オタク系展示が若い人の関心を集めやすいと述べたが、そもそも図書館がオタク展示を実施していること自体が、ネタになる。図書館はやはりまだ固いイメージがあり、オタク系の文化に不寛容である印象があるのだ(マンガを積極的に蔵書している図書館が少ないからであろう)。よって、図書館とオタク系企画のコラボというのは、ギャップがあり、目新しいものととらえられており、それ自体が話題になりうる。

しかし、オタク系展示を行えば必ず話題になるわけではない。話題化についての事例をあげよう。前述に例としてあげた「絶対読書戦線メソポタミア」展示は「絶対魔

獣戦線バビロニア」のアニメ放送開始時期に近い日程で実施した。この展示を Twitter でツイートすると、1000 を超えるいいねがついた。これは十分バズったといえる数である。このあと約半年後のアニメ最終回後に「絶対読書戦線メソポタミアⅡ」展示を実施し、同じようにツイートしたが、こちらは98いいねにとどまった。最終回後では、すでに話題は過ぎ去っていたのだと思われる(もしくは2番煎じと思われる可能性もあるが、Twitter 界限で2番煎じという理由で大きな格差が開くとは思えない。2番煎じはむしろネタの範疇である)。バズった方のツイートには、このツイートをきっかけに図書館に来館しましたという報告が多く寄せられ、短い期間ながら多くの貸出しがあった。

この事例のように、時期を適切に選べなければ、話題作りを達成することは難しい。



(同じメソポタミア展示のツイート比較)
 説明：左はアニメ放送直後、右はアニメ最終回直後。最終回の方が盛り上がりそうなのであるが、そんな安易な予想はそば(安易な考えが否定された際に使用される。)されました。

オタクについて

さて、さきほどから何度も連呼しているが「オタク」という表現について注意と補足をここに述べておく。世間一般でオタクは、マンガ、アニメ、ゲームに傾倒する人を指す。しかし、オタクを定義するのはそもそも難しい。斎藤環氏(精神科医)や岡

田斗司夫氏（通称オタキング）が語るように、その活動内容や知識の深さなどを定義内容とし、オタクが関心を持つ分野そのものには関係がなかったりもする。自衛隊オタク、アイドルオタク、歴史オタクがそれだ。筆者からすれば、オタクは高度な研究家であることを述べたいが、それは話が逸れるので、割愛する。しかし、展示内容によってアニメ的展示、マンガ的展示などと述べてはキリがない。また、この冊子の対象は、オタク文化そのものへの関心が低い一般人及び図書館職員も含まれていることを考慮し、本冊子では、オタクのことをマンガ、アニメ、ゲームを中心とした所謂サブカルチャーを示すこととする。

オタク系展示の実例

前述したように、オタク系展示はマンガ、アニメ、ゲームなどをネタにした展示である。このように書くと、図書館関係者からは、そもそも図書館にマンガを蔵書していない、アニメ映像資料もない、ゲームなどあるわけがないという蔵書に関するものや、そもそもそれらオタク系のテーマを据えて良いものか？という反応が返ってくる。断言させてもらうが、マンガやアニメ、ゲームが無くてもオタク系展示はできる。どういうことか。事例紹介と共に解説しよう。

写真は 2018 年 2 月に開催された「ファンタスティックギャラリーオキナワ」であり、筆者が初めて本格的に実施したオタク系展示である。展示の趣旨説明には、英雄や神話に関する図書を集めたとあるが、これはスマホゲーム「Fate Grand Order」（略して FGO という。）を元ネタにしている。このゲームは過去の英雄や偉人などの英霊を現代に召喚し、主人公とともに戦い、世界を救うというストーリーである。



（Fantasy Gallery in Okinawa 展示）

説明：平成 31 年 3 月に開催。895 リット、821 いいねを記録した。

この召喚される英霊たちは、神話の登場人物(例としてギルガメッシュやヘラクレス)や歴史上の人物(例としてナポレオンや織田信長)などが登場しており、毎回どのような人物が登場するのかがとても注目されている。さて、この FGO 展示の図書を見てみると、一見普通の伝記や歴史書、神話本のようなのだが、その実、FGO ファンにしてみれば、明らかに FGO 登場キャラクターの関連本が置かれているように見えるのである。言ってみれば、これらの図書はゲームキャラクターの詳細な解説書であり、ファンブックであり、より深くキャラを知るツールとなるのだ。この展示にはマンガそのものや、ゲーム画像なども使用していない。それでも、FGO ファンはこの展示を見ただけで、なんの展示なのかを瞬時に察してしまうのである。

FGO には 300 近いキャラクターが存在し、それぞれが魅力的であることも人気の理由であり、FGO 好きというよりも、そのキャラクターが好きという人も多い。また、神

話や歴史に基づいた行動や会話を繰り広げるため(アンデルセンとシェイクスピアと紫式部という時代の異なる文筆家達が会話していたり、ダヴィンチとシャーロックホームズという異色のコンビが作戦会議していたり、神話では殺し合う仲であったカルナとアルジュナが仲良さげに会話しているなど)、そのキャラの歴史や背景、作品、遺物、伝承、伝説などを知ること、より深くゲームを楽しむことができる。それらキャラクター達を深く知る場所として図書館が有効であると筆者は考えている。現代はネット検索が発達し、ネット上で情報を得ることはできる。しかし、ネット情報は断片的なものが多く、また根拠の不確かなものも多い。それに比べて図書はある程度の根拠を持って出版されており、著者は学者であることも多く、信頼性が高い。もしくは、Wikipedia などでは出典が記載されていることもあり、その出典元を図書館で探すというルートもあるだろう。FGO ファンに限らず、オタクは情報を得ることに対して、どこまでも貪欲になれる。ここでいう情報とは、何も正確無比の事実に限られない。なぜならキャラの出典が神話や伝説、歴史であった場合、そのキャラの行動や言動は研究者によって、さまざまに解釈される。先ほどの例でいうと、カルナとアルジュナは神話「マハーバーラタ」に登場し、物語上は殺しあう関係となってしまうが、元々は共に武術を習ったライバルであったという。まるで小説のような関係性であるが、神話であるからこそ、二人の関係性には解釈が入り込み、ファンからすると美味しい関係(この表現を分かり易くすることは難しい。一時期流行った萌えに近い概念であるが、少し異なる。自分の趣味嗜好に都合よく合致している、もしくは想像を非

常にかきたてる状況、ということだろうか)であるのだ。歴史や神話というどこまでも深く掘れる資料群であるからこそ、その魅力は計り知れないといえる。

FGO が英霊を題材としたゲームであり、その関連図書を数多く抱える図書館との相性はとても良いといえる。では、FGO が特殊な事例なのだろうか。筆者が考えるに、決して特殊ではない。他にも、ゲーム「あつまれ どうぶつの森」をネタとして、植物、魚、昆虫、化石、名画、DIY の図書を集めた展示もあり、社会現象となっている「鬼滅の刃」をネタとして、SL 特集や明治特集、鬼特集、柱特集なども考えられる。下記に筆者が思いつくネタを箇条書きにしてみた。カッコ内は元ネタ作品である。

- ・悪魔特集 (チェンソーマン)
- ・アイスと黄金特集 (ゴールデンカムイ)
- ・キャンプ特集 (ゆるキャン△)
- ・篆書特集 (呪術廻戦)
- ・文豪特集 (文豪ストレイドッグス)
- ・妖怪特集 (東方 project)
- ・倫理と哲学特集 (ここは今から倫理です。)
- ・舞妓と料理特集 (舞妓さんちのまかないさん)
- ・宝石・岩石特集 (宝石の国)
- ・本の作り方特集 (本好きの下克上)
- ・仏教とキリスト教特集 (聖おにいさん)

これらがパツと思いついたが、元ネタをどのように図書館と絡ませるか、コラボするかは企画次第である。さらに企画内容を詰める例として「本好きの下克上」を取り上げると、本が大好きな主人公が紙作りから始めて、本を作り、本を普及させる話であるが、話の途中で魔法や神様、貴族社会が登場する。本の作り方ではなく、魔法や

神様に関する特集を組むのもよい。作品内で髪飾りの自作やイタリアン料理の話もあるので、服飾や料理の特集もありうる。作品を多面的に見ることで、図書館とのコラボも幅が出るだろう。



#あつまれとじよかんの森 展示
本日より始まりまして！～7月6日迄*
こちらの展示は、とあるゲームに親子でハマってしまった職員の展示です。
昆虫、植物、魚、化石、名画、DIYなどの本を展示しており、子どもから大人まで楽しめる展示となっています。是非ご覧ください！
#青いバラ 咲かせたい



(あつまれとじよかんの森 展示)
説明：ゲームにはまった職員による企画。一見共通性のない特集であるが、知っている人にとっては、納得の選書である。青いバラコメントが特に秀逸。



としよかんまつり企画展示 【大正時代とSLと鬼！】
ん？ どこかで聞いたことがあるような・・・柱(w-)
あの大人気漫画に関連した本を展示しています。
推しの一冊に何が選ばれたかぜひご覧ください！
柱の趣味本も一部あり。11/30まで
#恋 #蛇 #岩 #蝶 #風 #音 #炎 #露 #水



(大正時代とSLと鬼 展示)

説明：「鬼滅の刃」というネタがなければ、全く何の繋がりも見えてこない選書であるが、すでに国民的認知度を誇る作品だけに、違和感を探るのが難しいレベルだろう。

オタク系展示の対象者

筆者が以前に図書館総合展とゲーム部企画イベント「オタク司書に聞いてみよう」に出演した際、「来館者がほとんど知らないジャンルの展示をするのはいいのか？」という趣旨の質問を受けた。それに対して筆者は「気にしていない」と答えた。今にして思うと少し言葉足らずであったと思う。オタク系展示を新規来館者の開拓という面で見した場合、既存の来館者達が知らないことは展示企画を阻害する理由にはならない。筆者は日頃から「一部の人にしか伝わらない展示」という表現をよく使っているが、正確には「一部の人に伝えたい展示」なのである。「この図書館には〇〇という作品に関連した図書がこんなにあるよ。面白いよ。読んでみなよ。読んだら〇〇がもっと面白くなるよ」というメッセージをオタク系展示に込めているのである。このメッセージが届くのはその作品を知っている人であろう。もし既存の来館者の中に知っている人がいるなら、そのまま楽しんでもらい、新規来館者を呼び込めたなら、たとえそれが一人であっても大成功である。さらにいうならば、展示を Twitter などの SNS で宣伝することで、たとえ来館しなくても、図書館にこのような関連図書があったのだと、その宣伝を見た人が発見してくれれば、それはそれで成功なのだ。展示は新たな発見の場である。図書館職員はその場を積極的に作り出しており、オタク系展示はその方向性が少し尖っているだけなのだ。展示の感想に、「これって〇〇だよね？」「もしかして図書館に〇〇ファンがいる？」というのをいただくことがある。オタク系展示企画者の趣味がばれているということである

が、これは最高の褒め言葉ではないだろうか。感想を述べた人は、企画者の意図を正しく理解しているのだから。

オタク系展示は、確かに一部のみにしか伝わらない面があるが、逆にターゲットがしっかりしていると言える。認知度が一般に低いというのは、その企画の問題にはならない。むしろ強みになりうるのだ

オタク系展示のノウハウ

ここからはオタク系展示実施に関するちょっとしたノウハウを記していく。以下に記すノウハウは、何もオタク系展示にのみ適用できるものではない。その他の展示にも活用可能な内容が含まれている。また、これらはあくまでも筆者の経験に基づくものであることを先に注意しておく。なぜなら、前章で何度も記したとおり、展示は場所に左右されうる。展示スペースの場所、スペース、使用できる什器、収容スペースなど、全く同じ図書館など存在しない。筆者も、旧館での展示手法と新館での展示手法は多少異なっている。その場所ごとに最適な展示方法を独自に編み出すことも必要であることは、常に意識してほしい。

まずはネタ探しである。基本的にオタク系展示は企画者の趣味嗜好を土台とする。しかし、最近の流行に安易に乗ることを否定するものではない。たとえば前述の「鬼滅の刃」である。発行部数も多く、ほとんどの日本人が大まかなストーリーを把握しているのではないだろうか。このようなテレビで話題になるような作品は、ネタにしやすい。オタク系展示解説の冒頭でも述べたように、マンガ原作がアニメ化もしくはドラマ化され、放送されるタイミングは狙い目であろう。しかし、ここで注意が必要である。表面的に作品の主題をなぞるだけ

では、来館者の中に本当にその作品のファンがいた場合に、「浅い」と思われる可能性がある。たとえば、「鬼滅の刃」で展示選書するのであれば、タコの図書やサイコロステーキが表紙の図書があれば、鬼滅ファンのさらにコアな人にもその意図が届くだろう（何故タコやステーキなのかというのは、「鬼滅の刃」のネタバレになるので、ここでは説明しない）。作品のファンであるからこそ伝わる選書というのはやはりある。コアなファンに届く選書は、やはりその作品を知るオタクしかできない。もし作品をよく知らないままに展示するのならば、作品をよく知る人を頼るべきだろう。

また、映像化されていなくてもネタを探すことは可能である。筆者はTwitterを嗜んでいるが、Twitterのトレンドはネタの宝庫である。Twitterのトレンドで見つけたのをきっかけに実施した展示も多い。「心理学特集」は「ALTER EGO」というスマホゲームを元ネタにし、「米ニケーション」展示は「天穂のサクナヒメ」という任天堂のゲームを元ネタとしている。どちらも一定の期間トレンドでよく見かけたものである。

上記のように、話題となった作品をネタに展示を企画することが多いが、究極的にはそれらの話題性が無くても良いとは思っている。オタク系展示の説明に「話題となった時期に実施」というのがあるが、厳密には担当者の中で熱いネタであればよいのではないだろうか。筆者はいつか「美少女戦士セーラームーン」をネタに太陽系展示を行いたいと考えているが、特にきっかけを見つけられず、案として頭の片隅あるだけである。ネタを温める期間も必要なのであろう。



心理学特集& #ALTEREGO 特集
3月31日開催の #アドラー心理学 講座に合わせた展示
です。
また、自分探しタップゲーム #ALTEREGO にて紹介さ
れた図書を集めて関連展示としました。
図書館で自我をあらわしましょう！



午後9:44 · 2019年3月19日 · Twitter for iPhone

(心理学特集と ALTER EGO 展示)

説明：平成 31 年 3 月実施。Twitter で少々話題になったスマホゲーム
であり、ある図書を読み進めていくようなストーリーであり、これをきっ
かけに図書を手取る学生もいたという。当時学生向けの展示を考えて
いたところであったので、渡りに船と企画した。さらに、ゲーム開発者
に直接連絡し、販売用であった POP データの使用許可をいただき、掲示
した。公式からの正式な許可画像を使用した最初のオタク系展示であっ
たといえる。



展示紹介
明日から3階展示にて、#米ニケーション展示 を開催し
ます。
11月23日はお米に親しむ #コミュニケーションの日で
す。
お米と稲作の図書を多く集めました。
また、#天穂のサクナヒメ の画像はなんと公式許可の
下で掲示してます。
皆様のお米ライフが少しでも充実したなら幸いです。
#米は力だ



午後7:37 · 2020年11月17日 · Twitter for iPhone

(米ニケーション 展示)

説明：令和 2 年 11 月展示。ゲーム「天穂のサクナヒメ」は、稲作しながら
鬼を倒す内容であったが、稲作があまりにもリアルすぎるものが
Twitter 上で話題となった。これをネタにできないだろうかと調べると、
11 月 23 日がコミュニケーションの日であることを知り、お米展示を企画
した。また、図書館関係者からの情報提供で、制作会社からゲーム画像
の使用許可をいただいたとあり、同じく使用許可を得て画像を使用した。

オタク系展示での 2 次利用

オタク系展示を実施する際、作品の画像
などをそのまま使用したくなるだろう。し
かし、著作権法上、無断使用は厳しい。よ
って、権利者に問い合わせるみることが一
番無難である。実際に問い合わせたところ、
前述の「ALTER EGO」や「天穂のサクナ
ヒメ」については、利用が正式に認められ、
展示に活用した。意外に許可を出してくれ
るところはあると思うので、気になったら、
すぐに問い合わせるのが無難である。最初
に述べたように、図書館が無断使用してい
ては良くないので、必ず確認すること。最
近では HP に事前に情報を載せている場合も
あるので、要確認である。もし使用できれ
ば、Twitter などで大々的に宣伝し、公式元
に感謝を述べるとよい。また、看板やポッ
プ制作時に、ウェブからフリー画像を探す
ことがよくあると思う。これらについても、
必ず利用規約を確認すること。実は使用画
像の点数上限がある場合がある。ついでに、
筆者がよく使用するウェブサイトを参考資
料欄に掲載しておく。

オタク系展示のタイトルと看板

オタク系展示で意外に重要なのが、タイ
トルである。タイトルを考える際に、筆者
が意識的に避けているのが「〇〇展示」「〇
〇特集」とうネーミングである。前述の展
示企画例にはこれらの単語を使用したのが、
実際に展示を作成する場合には、もっと作
品に寄せたタイトルにする予定である。例
を出すなら「図書キャン◇」、「この棚は倫

理です」、「宝石の本」、「セイント・ブックス」、「篆書展開」など（あくまでタイトル案）。「篆書展開」は文字を篆書体にする工夫は必須となる。筆者が最初にオタク系展示を実施したのは2019年2月であったが、それ以前にもタイトルで試行錯誤していた時期があった。写真がその一部である。選書内容はビジネス書であったが、タイトルのみ工夫していた。もし、オタク系展示を企画するのが難しければ、このようにタイトルだけ好きな作品を掘ったり、オマージュしてみるのはいかだろうか。



（旧館ビジネス展示看板の一部）

説明：縦長書架に設置する看板。アニメや映画のタイトルや有名な台詞を掘ったものが多い。展示図書はビジネス関連図書であったので、オタク系展示とは異なる。

また、看板づくりにもここで触れておく。

タイトル看板もタイトルと同様に重要である。文字が読みやすいように工夫すること。簡単なのは、タイトルのフォントを太くし、大きくすることであるが、展示内容によってはそぐわないことも多い。看板作りに不慣れな方のやりやすいミスとしては、タイトルの文字色と背景色が同じような濃さで見づらくなってしまうことである。素直に背景色を薄い色にしてしまうのが無難。また、背景に画像を配置する場合には、こだわりがなければ看板いっぱい配置するのが無難である。フリーの背景画像はたくさんあるので、お気に入りを探すとよい。

つらつらと細かなことを書いたが、要はデザインの問題である。文系が多い傾向にある図書館職員の中には、デザインが身近なものと思っていない方もいる。しかし、図書館にはデザインの基礎に関する図書も蔵書しているはずである。大いに参考にするべきだ。そもそも、図書の表紙デザインが良い見本である。見やすいデザイン、見づらいデザイン、好きなデザインなどを探し、少しでもデザインを参考にとよい。

オタク系展示と広報

すでに行っているとおり、オタク系展示は一部の人に届けたい展示である。しかし、展示とは、そもそも閉鎖的な催しでもある。特に図書館の展示は、図書館内で行われるものであり、図書館に行かなければ展示を見ることも、知ることもできない。それでは、まだ見ぬ同好の者へと図書館の魅力を届けることはできない。よって、オタク系展示は広報とセットでなければならない。

当館の展示広報は主にTwitter上である。どのようなツイートをしているのかは、すでに載せている写真を参照いただきたい。また、ツイートする際のポイントをいくつか列挙する。まず画像を載せること。文字のみでは展示の魅力は伝わらないので、画像を添付することを忘れないように。次に、#ハッシュタグをつけること。#ハッシュタグとは、「#」をつけた話題について検索がしやすくなる機能である。もともと作られているワードを使ってもよいし、新しく作るのもよい。

余談ではあるが、Twitterでの広報について、単独でオタク系ツイートをしてもよいと筆者は思っている。例えば、下記の写真のように、テレビ番組で放送された内容が、オタク界隈で話題になっていたならば、そ

れと図書を結び付けてツイートするのも、立派な企画であると感じる。熱いネタを逃さない姿勢は、まさに図書館法に「時事に関する情報」の提供ではないだろうか。



売り切れ続出と噂の「#鬼滅の刃」新聞広告が載っている5紙(読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞)は、当館なら全て見ることができます。記事の切り抜きや破り取りはご遠慮ください。また、当日新聞のコピーはできません。譲り合いを忘れずにご利用下さいませ。

#鬼滅新聞
#切取厳禁



(鬼滅の刃新聞広告に関するツイート)

説明：社会現象ともいえる人気であり、周知と注意も兼ねてツイート可能なままとない機会であった。



昨夜NHK「#ちんちんクラシック」にて紹介されました #サリエリ の関連図書は、当館にも蔵書があります。サリエリのお菓子好きは、図書「宮廷学長サリエリのお菓子な食卓(#遠藤雅司)」になるほどなのですね。#モーツァルト や #シューベルト などの関連図書もあります。音楽家特集も面白そうです。



(サリエリ本紹介ツイート)

説明：Twitter 上でも話題になったサリエリ特番。FGO に登場するキャラクターとして照会され、図書の紹介もあったので、逃す手はなかった。

最後に

オタク的視点について考えたことがある。例えば、アニメ作品を観たとする（あるいは映画でもドラマでもいい）。その作品に感動し、ファンとなれば、ネット検索などにより詳しく情報を探してしまうだろう。もし原作本があれば、それを読んでみたいと感じ、原作者の他の作品も手に取ってみたいくなる。広がりはその中に留まらず、作品の制作会社、監督、脚本、出演者、キャラデザまで興味関心が向かうこともある。あるいは主題歌やサウンドトラックから歌手や作曲家へ、作品内の舞台が現実にある場所ならば、そこへ行きたくなり（いわゆる聖地巡礼のこと。）、時代が違えば当時の時代背景や歴史を知りたくなる。このような一つの作品に対する多面的で周辺の視点の持ち方と情報収集への飽くなき欲求を、私はオタク的であると考えている。このような視点の持ち方は、実は図書館職員が得意なのではないだろうか。図書を探すときはほぼ必ず、目的の図書以外にも目が向くはずであり、それは冒頭でも述べた、図書の並び方に由来するものかもしれない。レファレンスの際には、取りこぼしのないように、周辺の情報も収集するだろう。むしろ周辺の情報を提供したほうが、来館者が喜ぶこともある。

少し迂回するようなことを書いたが、図書館職員にとって、オタク系展示はやりやすい分野なのではないだろうか、ということである。

図書館職員がオタク系展示の企画に二の足を踏む理由が二つある。一つは前例が見つけられないこと、または近隣の図書館に

類似事例がないことである。もう一つは、手法がわからないということである。前者については、本冊子で書いたとおり、事例は十分であろう。図書館とオタクとの間に垣根などないのだ。後者についても、書ける分は書いた。これ以上は直接問い合わせ願いたい。アドバイスならいくらでも提供しようと思う。

ここまで書いてであるが、筆者は自分をオタクであるとは思っていない。オタクを自称するには、オタク文化への知識と理解がまだまだ浅いと思っているからだ。しかし、オタク的視点は持っていると思っている。テレビでニュースや番組を見たとき、Twitter でトレンドを見たとき、マンガを読んでいるとき、日常会話も含めて、頭の片隅では「これ、図書館を絡ませるならどうするかな？」という自問が常にあるのだ。その理由は、自分が面白いと思ったことを逃したくないからである。面白いと感じたその瞬間の喜びを、そのまま展示企画にすることができれば、展示準備も、展示期間中も、面白いと感じた瞬間が続くように思えるのだ。本章で紹介した展示のすべてを筆者が企画したわけではないが、紹介された展示からは、企画者が楽しく取り組んでいたことが伝わるのではないだろうか。オタク的展示を企画する際に、最も大事なことは、面白いと企画者が感じていることである。その元ネタがなんであれ、その作品を面白いと感じたことが根底にある展示は、いうなれば強いのである。また、それは来館者にも必ず伝わるはずだ。

筆者はアニメ、マンガ、ゲームに傾倒した展示を行ってきたことで、オタク的展示を、それらを元ネタとするように位置付けたが、もっといろいろなオタクがいてもよいと思っている。企画者のドキメキや情熱が

伝わるような熱い展示が今後も全国の図書館で増えることを願っている



（「Under The Kyusyu Sky」展示）

説明：5月から7月にかけて全国の地方新聞に載った FGO 新聞の特集展示。真ん中上の展示看板の背景画像は、当館の夜景画像である。筆者にお気に入り画像の一つ。

参考資料

カッコ外に特に表記の無い資料は図書である。それ以外のアニメ、ゲーム、動画、ウェブサイトはそれぞれに表記をしている。また、順番については特に配慮していない。

1. 「沖縄県立図書館要覧 平成 21 年」
2. 「沖縄県立図書館要覧 平成 22 年」
3. 「沖縄県立図書館要覧 平成 23 年」
4. 「沖縄県立図書館要覧 平成 24 年」
5. 「沖縄県立図書館要覧 平成 25 年」
6. 「沖縄県立図書館要覧 平成 26 年」
7. 「沖縄県立図書館要覧 平成 27 年」
8. 「沖縄県立図書館要覧 平成 28 年」
9. 「沖縄県立図書館要覧 平成 29 年」
10. 「沖縄県立図書館要覧 平成 30 年」
11. 「沖縄県立図書館要覧 令和元年」
12. 「戦闘美少女の精神分析」
斎藤環
13. 【図書館総合展 2020】『図書館、書店での FGO 展示を聞く』 図書館総合展図書館とゲーム部 (YouTube 動画)
https://www.youtube.com/watch?v=_jhVmV21kt8
14. 「オタク系司書に聞いてみよう」 図書館総合展とゲーム部 (YouTube 動画)
https://www.youtube.com/watch?v=_jhVmV21kt8
15. 「日本十進分類法新訂 10 版」
公益社団法人 日本図書館協会
16. 図書館法 (昭和 25 年 4 月 30 日)
17. アニメ「絶対魔獣戦線バビロニア」
CLOVER WORKS
18. スマホゲーム「Fate Grand Order」
DELIGHTWORKS
19. ゲーム「あつまれ どうぶつの森」
任天堂

20. 「鬼滅の刃」
吾峠呼世晴
21. 「ゴールデンカムイ」
野田サトル
22. 「ゆるキャン△」
あfろ
23. 「呪術廻戦」
芥見下々
24. 「文豪ストレイドッグス」
朝霧カフカ・春河 35
25. pc ゲーム「東方 project」
上海アリス幻楽団
26. 「ここは今から倫理です。」
雨瀬シオリ
27. 「舞妓さんちのまかないさん」
小山愛子
28. 「宝石の国」
市川春子
29. 「本好きの下克上」
香月美夜
30. 「聖☆おにいさん」
中村光
31. 「美少女戦士セーラームーン」
武内直子
32. 「チェンソーマン」
藤本タツキ
33. スマホゲーム「ALTER EGO」
株式会社カaramelカラム
34. ゲーム「天穂のサクナヒメ」
マーベラス
35. 「SILHOUETTE DESIGN」
<https://kage-design.com/>
36. 「SILHOUETTE ILLUSTRATION」
<https://www.silhouette-illustration.com/>
37. 「ダウ獣ギ画」
<https://chojugiga.com/>
38. 「Unsplash」
<https://unsplash.com/>



垣花

おでライ参加準備チーム「図書館の推し事」です。
おでライ参加への意気込みを聞いてみましょう。

郷土担当 RS



ツイート後、あまりの反響にビビリ散らかしました。郷土
マンガと小説を紹介。なお、郷土資料エリアでの私の推し
は市町村史（地域史）コーナーです、こちらもぜひ。



さおり

図書館でイベントに参加させていただいてありがと
うございます。今回は同人誌作成にあまり関わることが
できなかったけれど、次回こそは！

ねんねー



本を借りるだけじゃ勿体ない！図書館でおもしろいも
のを見つけて、使い倒してください。



仲尾

沖縄県立図書館がこのような素晴らしいイベントに参
加させていただけること、大変ありがたあああああ
ああああ !! 私だって漫画好きなんだよおお！

Y・T



沖縄県立図書館として初参加のイベントにワクワクし
ております！多くの方に県立図書館の魅力を知ってい
ただければ嬉しいです。



まっしー@本名じゃないよ

図書館としてイベントに参加できること、とてもうれ
しく思います！今回は紹介できませんでしたが、次回
は空とぶ図書館について知ってもらいたいです！

Noha



図書館でイベントに参加できる機会がいただけるとは思
っておらず、とっても嬉しいですー！

奥付

沖縄県立図書館職員が本気で薄^{マジ}い本を作ってみた。～一般展示編～

2021年1月11日発行

編集・発行 沖縄県立図書館（沖縄県那覇市泉崎1-20-1カフーナ旭橋A街区）

編著 垣花司（沖縄県立図書館奉仕班）

イメージキャラクター「ららちゃん」製作者 仲尾涼子

作業 チーム「図書館の推し事」

印刷・製本 有限会社ドリーム印刷

本冊子の私的複製は自由に可能です。
内容の改変・翻案は禁止します。

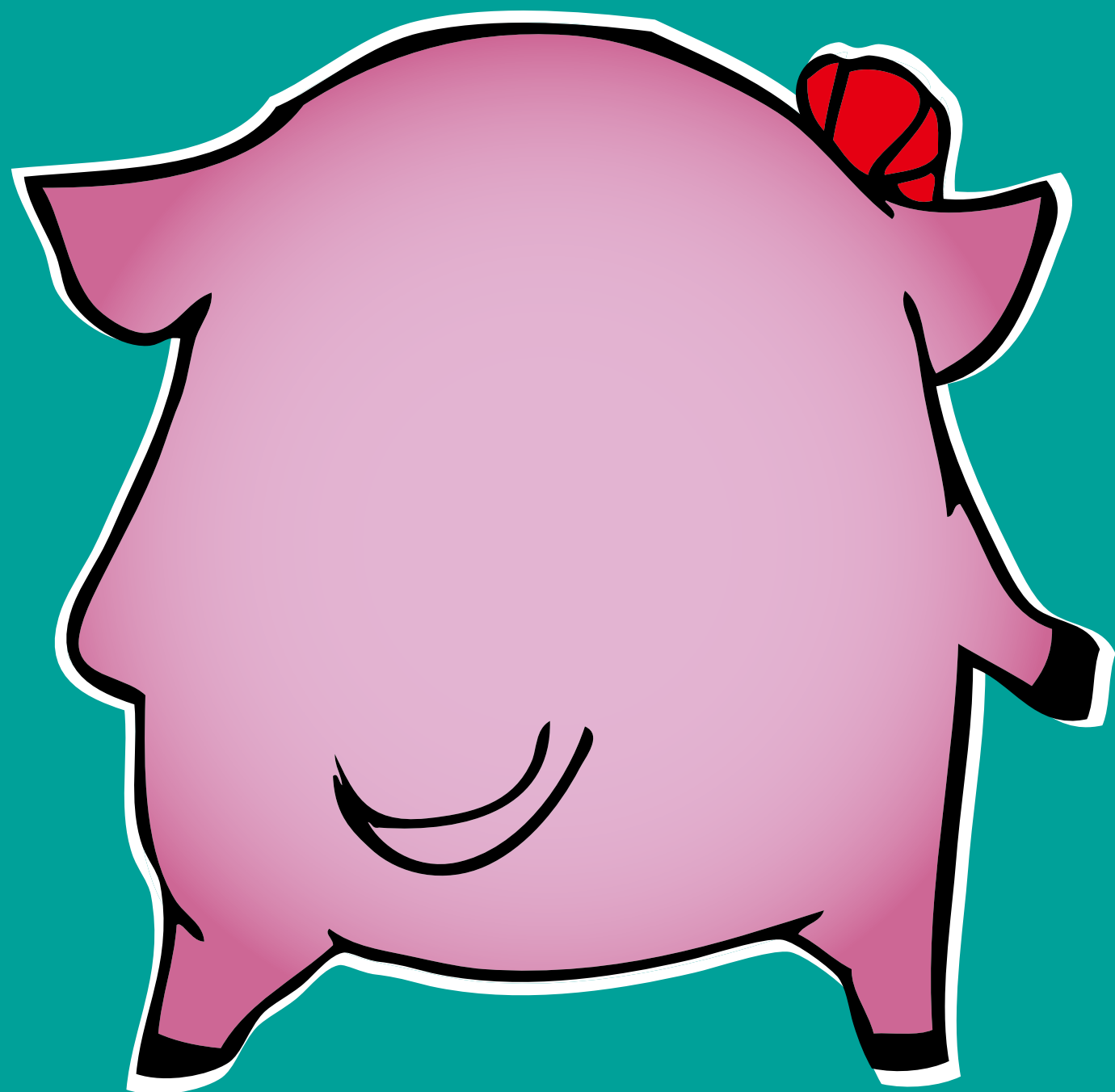
本冊子に登場する「ららちゃん」は、発行時点では著作権は、
仲尾涼子職員に帰属しており、私的複製以外の利用は禁じます。
なお、本冊子での利用は本人からの了解を得ています。



NEC

平成22年度
沖縄県立図書館要覧





沖縄県立図書館